

## 防災・減災に関するアンケート結果

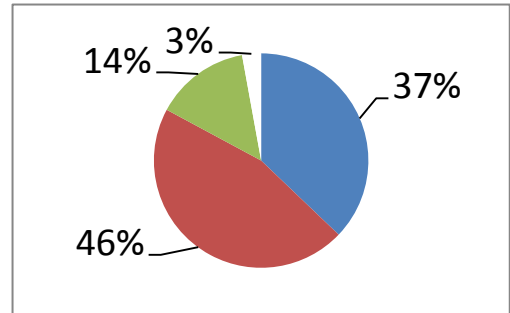
依頼数 71件(地域防災拠点26拠点、団体15団体、個人30名)  
回答数 24件  
回収率 33.8%

### 1 東日本大震災後、あなたのまわりでは防災・減災に関心が高まりましたか

- 関心が高まったと思う 21
- あまり変わらないと思う 2
- その他 0

関心が高まったと思う理由を教えてください

- 話題になることが増えた 13
- 防災対策について話し合うことが増えた。 16
- 防災訓練等の回数・参加者が増えた 5
- その他 1



#### ○関心が高まったと思う理由

震災直後から半年ぐらいは、ものすごい関心が高まっていたが、時間がたつにつれ防災・減災の意識の低下がみられる。
地域内の防災拠点内団地(公営)内に移住(入居)してきた人(世帯)がいる。話題になる。
マンション内でも防災備品の見直しがあった。家庭内の防災用品も増やした。
いつ起こるかかわからない災害の為に備蓄品の量を種類を増やすことを打ち合わせた。予算を防災品に充てるように増額した。
災害時に特に要援護者、また、ひとり暮らし高齢者の安否確認を24年度防災訓練のプログラムに入れた。
防災本部会議の毎月開催。
自治会員対象に「防災のつどい」を実施。去年は3月11日、今年は3月17日に行う。家族で参加する方が多い。
職場でも防災を考えチームを作成、各種訓練に参加している。
震災現地へ支援に行かれた方を招いて町内会館で講演をしてもらった。
義援金の協力に応じてくれた。
青パトで回っていると手を振ってくれる方が多くなった。
住宅の安全や避難所について話し合うことが増えた。
防災会議の中で、常にケースとして参考例にあがる。

#### ○あまり変わらないと思う理由

防災・減災について自治会で啓発しているが、全体としてはとぼしい。
----------------------------------

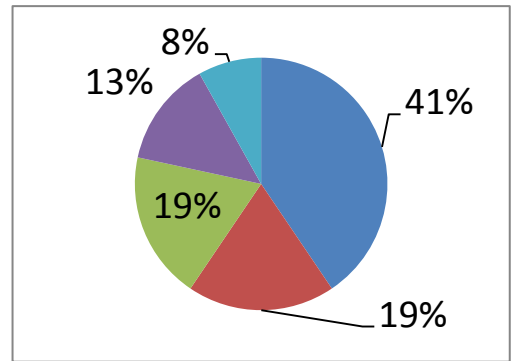
2 東日本大震災後、あなたの自治会町内会では「防災計画」や「避難場所」等の見直しをしましたか

- した
- しない
- わからない

見直した点を教えてください

- 避難(集合)場所
- 組織
- 役割
- 連絡方法
- その他

20  
2  
1  
  
15  
7  
7  
5  
3



○見直しをした点

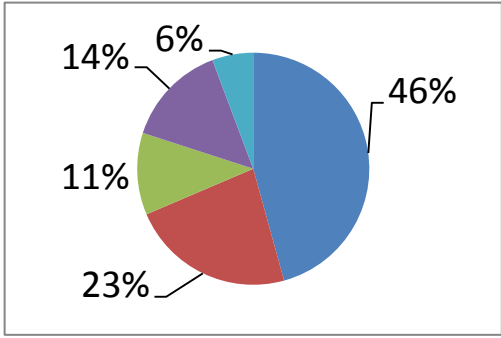
東日本大震災前から「いっとき避難場所」「要援護支援者名簿」「災害用備蓄品」等の準備を万全にしていたので、特に大掛かりなことはしていない。震災後に「いっとき避難場所」を再度徹底するために町内会員全戸に避難場所マップを配布および「要援護支援者名簿」の更新を実施した。
津波被害の見直しや中間的避難場所等、新たな防災計画や避難場所等の見直しをこれから実施する。
会館をいっとき避難場所をすることを徹底した。拠点への避難ルートについて三通りのルートを考えて。
いっとき避難場所のカラー刷りの印刷物を作成し、全自治会員に配布。
役員会で近くの講演を「いっとき避難場所」とすることを決定し、区役所に届けるとともに、自治会内に回覧で徹底した。
いっとき避難場所を設定（町内周知）した。
公園にいっとき避難場所の表示をした。
備品倉庫内の見直しをした。
備蓄について考えさせられた。
地域防災拠点訓練を24年度より小学校教職員と協働で避難訓練を実施している。
エレベータ内への閉じ込められ対策をした。
各班内至急連絡網の確認と連絡の方法について話し合う。
自治会の行動マニュアルを作成し、全戸配付した。
拠点との連携、自治会でできること、家庭ですべきこと、地域のコミュニケーションについて検討した。
緊急連絡網の点検チェックをした。

○見直しをしない理由

今の組織が目一杯である。
--------------

### 3 東日本大震災後、あなたの自治会町内会では「備え」の見直しをしましたか

- した 21
- しない 1
- わからない 1



見直した点を教えてください

- 備蓄品 16
- 要援護者支援対策 8
- 広報活動 4
- 防災学習会 5
- その他 2

#### ○見直しをした点

町内会のブログ・回覧板・掲示板及び班長会で各家庭の備えを最低7日分備蓄及び家具の転倒防止等の減災をするように徹底した広報活動を実施した。
班長会にて、机上の防災訓練（避難経路の危険個所の確認等）や町内会主催で「防災フェア」を開催し、町民等に対し防災減災についての備えを楽しみながら理解できるように実施した。
各自3日分の水と食料の確保を周知した。
救護器具を購入し、訓練に使用している。
備蓄品を収納するための倉庫を購入した。
充電式発電機の購入。発電機を有効に使用するため自治会館にLEDを取り付けた。
水、ストーブ等を覆う備蓄、備蓄庫の中身を役員が確認し、誰が見てもわかるように配置図を作成した。
備蓄品の種類、員数の再チェックを各委員(会)で徹底した。
テント、食糧、トイレ、車付タンカ、リアカーの備蓄を見直した。
地域ケアプラザにおける赤十字の学習講座を連合町内会関係者が受講した。
防災委員に消防局主催の「ライセンス講習会」に参加を呼びかけ2名参加した。
救急情報カプセルを自治会会員全戸に配布し、冷蔵庫に保管し保管案内シールを玄関ドア内側と冷蔵庫表面に貼ってもらう。
毎年見直すことを制度化した。
誰が誰を支援するかの確認の徹底をした。
一人暮らし高齢者の安否支援について班内で確認し、いっとき避難場所にて情報交換しその内容により行動できるよう話し合っている。
名簿の作成がなかなか了解が得られない。時あるごとに要請はするが防犯の理由から難しい。

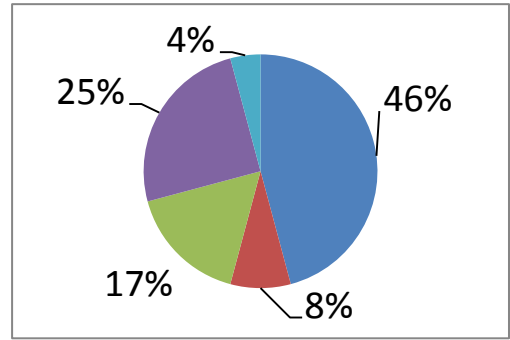
#### ○見直しをしない理由

備えはそれなりに充実している。
-----------------

### 4 東日本大震災後、あなたの自治会町内会では防災訓練等を見直しをしましたか

- した
- しない
- わからない
- 無回答

17  
4  
1  
1  
11  
2  
4  
6  
1



見直した点を教えてください

- 訓練内容
- 実施時間帯
- 周知方法
- 防災学習会内容
- その他

○見直しをした点

震度5強以上の地震の場合、域内公園にいつとき避難、集合とした。
防災拠点への移動の場合、小規模（少数）自治会はいつとき避難場所に集合し、全員一緒に(隊列を組んで)拠点へ移動することとした。
自治会役員・家族等で夜間の訓練を23年から2回実施。今後は一般の方たちの参加を求めて実施の方向。
実施時間帯を午後から午前中とした。
特に大掛かりな見直しはしていないが、拠点防災訓練で体育館に避難者を誘導して避難所体験を実施。町内会のイベントすべてに、炊き出し訓練を兼ねたカレーライス・豚汁等の模擬店を多数出店した。
今年は実技訓練ではなく「その時貴方は？」というテーマでグループディスカッションを実施した。
AEDの訓練を重点的に実施している。自助・共助の再確認。
ブルーシートによるハウス作りを増やした。
口述での情報伝達訓練を強化した。
拠点の防災訓練だけでなく自治会独自の訓練を実施した。自治会管内にある特老の施設の訓練の手伝いをした。
発災時間による救援活動は健常者が活動し救助にと、学習会等で色々な条件を想定し学習しているが、実際どこまでできるか不安である。
24平成25年度は自治会担当者、消防署の意見を聞き、訓練計画を作る。

○見直しをしない理由

例年通りの訓練をした。
-------------

○その他 事由記載

震災前より「地域防災会」という組織の会員を大募集しています。いっしょに防災について考えたり、臨災時に活動等できる方を大募集しています。
保健活動推進員主催で町内ウォーキングを年何回か実施している。当町内は坂道が多く急傾斜地多くあり、災害時に避難路等を話し合うなど、ウォーキングの際道を変えながら崩落危険箇所等見ながら歩いている。
マンションが免震構造なので、地震発生時も避難しない方針。
縦方向の行動を左右するエレベーターが止まった時、長期化したときの生活維持のための策に苦慮している。
備品の充実化
限りある予算の中で如何に防災備蓄費に回せるか頭を痛めています。災害の規模により、避難者が増減し、何を基準にして準備するのか迷うところですが、他の一般的な行事はなるべく手作りできるものは予算をかけず、備蓄品に回すようにしています。
隣人・近所の声掛け努力
一軒家から隣人、近所、班単位、町内会と点から線に線から面になるよう、日常から声掛けを習慣づけるよう努力してもらっています。
保土ヶ谷区全体の取り組みは何となくわかるが、町内会単位については、逆にどうしているのかよくわからない。炊き出し以外の行動は把握していない気がする。